

2024 年度教育協力ウィーク
「JNNE/ACCU/SVA 共催 国際識字デー記念イベント:
紛争・災害の影響を受けたコミュニティにおける識字・ノンフォーマル教育支援」

共催：教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）、シャンティ国際ボランティア会 (SVA)、
ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

1. 内容

9月8日はユネスコが定めた国際識字デーです。しかし、世界の7億6千万人以上の若者・成人が基礎的な読み書き・計算ができず、そのうち6割以上が女性です¹。また、紛争や震災、気候変動に起因する自然災害等の影響を受けている2億2,400万人もの子ども・青少年・少女が質の高い教育支援を必要としています²。いかなる状況下においても、子どもから大人まで質の高い教育機会を得るためには、学校教育のみならず、ノンフォーマル(学校外)教育支援が不可欠となっています。様々な危機の影響を受けた子ども・若者・成人の心理社会的ケアも重要です。

本セッションでは、国際識字デーを記念し、紛争・災害に影響を受けたコミュニティにおける緊急期から中・長期的な復興・開発における識字・ノンフォーマル教育の利点や課題、個人だけでなくコミュニティのレジリエンス(回復力)やエンパワメントの向上への貢献について、アフガニスタン、パレスチナ・ガザ地区、日本の東北での取り組みの事例を通じて理解を深め、今後の同分野における日本の支援促進のためパートナーシップをどのように構築するかを議論します。

2. 目的

- アフガニスタンにおける若者・成人への識字・ノンフォーマル教育支援、ガザ地区における心理社会的支援と教育、日本の東北における社会教育や途上国関係者への研修実施の取り組みを具体的に紹介する。
- 紛争・災害に影響を受けたコミュニティにおける緊急期から中・長期的な復興・開発における識字・ノンフォーマル教育の利点や課題、コミュニティのレジリエンスやエンパワメント向上への貢献について考える。
- 同分野における日本の支援促進のためパートナーシップ構築について議論する。

¹ UNESCO. (2023). *Global Education Monitoring Report 2023: Technology in education – A tool on whose terms?* Paris, UNESCO. <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000385723>

² Education Cannot Wait. (June 2023). *Crisis-Affected Children and Adolescents in Need of Education Support: New Global Estimates and Thematic Deep Dives*. https://www.educationcannotwait.org/sites/default/files/2023-06/new_global_estimates_and_thematic_deep_dives.pdf

- 上記を通じて識字・ノンフォーマル教育支援の重要性について参加者の皆さんとともに理解を深める。

3. 主な対象者

途上国での教育支援、特に識字・ノンフォーマル教育、紛争や災害等の緊急時・長期化する危機下における教育、日本国内での教育支援・研修等に関心のある教育協力実務者、政策決定者、民間企業、日本の教員や学生等の市民の方

4. 開催方法、使用言語、セッションスタイル

開催方法	オンライン
使用言語	日本語・英語(同時通訳あり)
セッションスタイル	事例紹介、コメント、質疑応答

5. 登壇者プロフィール

<p>ユネスコ・カブール事務所 ナショナル・プロジェクト・オフィサー ロマル・アブドゥラ</p>	
<p>セーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル、ノルウェー難民評議会(NRC)を経て、現職(識字・加速ノンフォーマル教育担当)。MBA, 社会科学学士、緊急教育上級修了証取得。10年以上の豊富な経験を活かし、特に日本がユネスコを通じて資金援助したノンフォーマル教育加速化プログラム(ANEP)や代替学習・ハイブリッド学習のイニシアチブのほか、アフガニスタンで地震の影響を受けた地域や、女性の教育が制限されがちな地域を支援してきた。</p>	
<p>教育を後回しにはできない基金 (Education Cannot Wait: ECW) 戦略的パートナーシップ チーフ ナセル・ファキ</p>	
<p>ECWのシニア・マネジメント・チームのメンバーであり、緊急時や長期化する危機下における教育への世界的な資金格差を埋めるための取り組みを監督。アドボカシー活動と資金動員に加え、中東・北アフリカ地域におけるECWの資金援助も管理。開発実務者であり、過去20年にわたり、アフリカや中東地域の危機的な影響を受けた国々で、教育や若者の</p>	

<p>リーダーシップ、持続可能な生計、環境保護、経済的エンパワメント、能力開発などを推進する国連や市民社会のイニシアチブを主導。</p>	
<p>ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 教育協力部主任 若山洋子(わかやま ようこ)</p>	
<p>ユネスコ・バンコク事務所、パリ本部で教育行財政と当該分野のキャパシティ・ビルディング事業に従事(2005～2011年)。2016年より現職。ノンフォーマル教育や地域に根差したESD推進事業を担当するほか、国内のユネスコ活動推進を目指すプラットフォーム構築に携わる。 博士(学術)。</p>	
<p>国際協力機構(JICA) 人間開発部次長・基礎教育グループ長 松山 剛士(まつやま たけし)</p>	
<p>鹿児島県出身。1999年JICA入構。人間開発部、資金協力業務部等で基礎教育分野の開発事業に従事し、ザンビア事務所・エチオピア事務所でアフリカの開発事業に従事。企画部イノベーション・SDGs推進室長等を経て、2023年から現職。</p>	
<p>シャンティ国際ボランティア会 (SVA) 教育事業アドバイザー 三宅 隆史(みやけ たかふみ)</p>	
<p>シャンティ国際ボランティア会のタイ国境のミャンマー難民キャンプ、アフガニスタン、ネパールで各事務所所長を務め、ノンフォーマル教育事業に従事した。現在、シャンティ国際ボランティア会教育アドバイザー、教育協力 NGO ネットワーク事務局長、立教大学文学部特任教授(社会教育・成人学習論)、開発教育協会理事、SDGs 市民社会ネットワーク教育ユニット幹事。教育学博士(上智大学)。</p>	

6. 次第

時間	内容	発表者／司会者名
15:20-15:25 (5分)	開会挨拶、背景説明・登壇者紹介	小荒井理恵 (JNNE)
15:25-40 (15分)	事例紹介①「アフガニスタンにおけるユネスコの若者・成人への識字・基礎教育支援アプローチ」	ロマル・アブドゥラ (ユネスコ・カブール事務所)
15:40-15:55 (15分)	事例紹介②「ECWの強固なコミットメント：戦時下のガザ地区におけるメンタルヘルス・心理社会的支援と学習」	ナセル・ファキ (ECW)
15:55-16:05 (10分)	事例紹介③「災害からの復興における市民社会の活躍と社会教育の役割～東日本大震災の経験から～」	若山洋子 (ACCU)
16:05-16:20 (15分)	コメント	松山剛士 (JICA) 三宅隆史 (SVA)
16:20-16:35 (15分)	質疑応答	
16:35-16:45 (10分)	登壇者コメント： 今後の日本の識字・ノンフォーマル教育支援促進のためのパートナーシップをどのように構築するか(緊急期～復興・開発まで)	登壇者全員
16:45-16:50 (5分)	閉会	小荒井理恵 (JNNE)

7. 備考

Zoom ウェビナー版を使用予定。

以上